

炊飯法廣告

夫れ經濟法は天下の樞要なる者にして一日も輕忽に附をべからず能く猛省注意  
 ねはならぬ抑又國を治め國を富し國をして衰頹をむるも皆な經濟法方の當否如  
 何に關涉さるは無し而して其法方は真に容易にあらざる難き者なり方今吾國  
 の論士諸家輩が喋々に其法方を論辨すといへども其の説く處は高尚迂濶に涉り  
 却て人民を使って目下に經濟の利益を得せしむるの功鮮し吾儕も常に以て憂  
 則ち大の本は小にあり國の本は家にあり小より大に及し家より國に及し而して  
 經濟の眞理を得と謂べし我輩素より經濟法に熱心勉勵して以て各府縣巡回の際と  
 雖ども主に經濟法を講説ことはなれ或時炊飯の一法を發明す此の法を採用ゆれ  
 は一家の經濟を補のみならず國の經濟を助くる利益は目下にある江湖の諸君  
 左の炊飯法二條に基き該法一度試查あらんことを乞其の上取捨は其人に任す

炊飯法

第一條

一炊飯法は是まで仕來りの通の水かけんに仕懸るべし

第二條

一何れも是までの焚方は釜中沸騰て其勢遂に釜蓋を撥揚け釜外に膏沫を溢滴す  
 まて焚熱を習慣として肝要なる膏沫を流棄て、恰も糟粕を喰に異ならざるが  
 如きを知らざるなり如何となれば夫れ米汁は第一健康を助るの樞要なる者な  
 り今我輩の發明する處の法方は已に釜中沸騰て其の勢釜蓋を撥揚と欲る時  
 小桶に水を一杯滿し釜蓋の上に置き直に  
 釜中の焚木を引き殘火を置き凡三十分斗  
 り蒸じ措く時は米汁毫も釜外に溢れ  
 美しく蒸熟になりて其味頗る甘美にして  
 健康を助ける此の法を採用れば米一割五  
 分繁殖る或又焚木壹貫目入る可き者なれ  
 は五百目にて調べ殘る五百目は利益とな  
 り則此を計算すれば一人に付一日金壹錢  
 五厘の益あり此を全國人員三千五百九十二万五千三百余人に比例すれば一ヶ  
 年の總計壹億六千五百三拾三万三千五百八拾圓となる此の法を採用ゆれば健  
 康を助け經濟を扶くる者は此より大なるはなし  
 但し三重縣人員八拾万人と見做し此に比例すれば一日に付金壹万貳千圓な  
 り壹ヶ月三拾六万圓なり壹ヶ年總計四百三拾貳万圓となる  
 但し全國輸出品代價壹ヶ年總計凡七千万圓の余なり此れに比較して右の利  
 益の大なるを知るべし



月 日

發明人

伊藤龜之輔

廣島縣備後國甲奴郡上下村